

平成30年度 第1回福岡市美術館協議会 議事録

日 時	平成30年6月26日(火) 14:00～16:00
場 所	福岡アジア美術館 会議室
出席者	美術館協議会委員：後藤会長 外 計13名 福岡市美術館：錦織館長 外 計11名 福岡アジア美術館：靄田館長 外 計 8名
議 題	1 福岡市美術館 平成29年度事業報告及び平成30年度事業計画について 2 福岡アジア美術館 平成29年度事業報告及び平成30年度事業計画について 3 その他

1. 開 会

2. 挨拶 (靄田福岡アジア美術館館長)

3. 議 題

(1) 福岡市美術館

平成29年度事業報告及び平成30年度事業計画について(岩永課長 外)

(2) 福岡アジア美術館

平成29年度事業報告及び平成30年度事業計画について(ラワンチャイケン課長 外)

(3) 質 疑 事 項 以下のとおり

会 長	各委員の所見はどうか。
委 員	会議で意見を出してもそれに対する回答がないままで、現状の分析等データに基づき議論した方が切迫した議論ができると思うが、前回もお願いした他の美術館における美術品の購入予算についての資料を提示いただきたい。また、予算確保の取組みについてもお聞きしたい。
事務局	財政状況が厳しい中、庁内で議論しながら予算確保に努めている。一方で「ふくおか応援寄付」による財源確保も重要であると考えており、今後も力を入れていく。 他の美術館の状況については、平成28年に政令指定都市の美術館14館を対象として行った調査では、約半数にあたる6館で美術品購入予算がゼロとなっている。また、その他の館の購入予算は数十万円から2千万円程度で、平均は約760万円となっている。 なお、資料の配付については、配付できる体裁のものはなく、ご容赦いただきたい。
委 員	2年ごとの委員の交代で議論が止まってしまうので、もう1回あいだで、会議をと言っているが、私の意見、予算以外の議論についても建設的な意見がない。議事録を残しているのか。

委員	過去に「事業計画の報告にあたり、予算額も併せて記載して欲しい」との要望を出したことがあるが、現在は「美術館協議会では事業の内容を協議し、予算については議論の対象ではない」と理解しているが、事務局の所見はどうか。
事務局	予算については市議会が審議を行うものであり、本協議会では具体的な事業の内容についてご意見を賜りたいと考えている。
委員	福岡市の成長戦略の文脈に文化の価値をどう位置付けるかを考えないと予算は先細りする。その中でどのように取り組むのかと指摘しても返答がない。
会長	他の協議会においても、予算額については提示せずに、事業の報告を行っている事例がある。美術館協議会は基本的には予算を審議する委員会ではないと思うが、一切の議論をしないということではない。少なくとも購入予算は記載されているし、「ふくおか応援寄付」を含めてどのくらいになっているのかも資料に出ている。
委員	美術館の活動は、研究・収蔵・公開の循環であり、美術館の長期戦略としては「購入による収蔵」が重要である。美術館の長期戦略としてみた場合に大きな部分を占める。当時予算をつけてしっかりとした良い作品を学芸員の方が選んで承認を受けて購入しているからこそ、美術館として成り立っていると思うが、現状からは、循環が上手くいってない。他館では、戦略的に企業などから寄附を集める仕組みを作り、成功している事例もある。長期的に福岡市美術館を市政の中でどう位置付けるべきか、福岡市美術館がどうあるべきかという議論は、避けて通れない。政令指定都市や海外の美術館をベンチマークにして成長戦略の中でどのように位置付けているのか、ということを協議資料にしないと議論が難しい。
会長	その議論をここでやるとなると、美術館予算のデータだけでは足りない。市の文化予算全体が必要であり、この協議会の力量や立場を超えている。細かなデータではなく、ソフトなジャンルでご意見をいただく程度ではないかと個人的には思う。 他の委員の意見もうかがいたい。
委員	他の協議会に出る機会もあるが、この協議会では予算などの数字の話がないのに驚いた。戦術がなく、私たちが議論するための資料がない。委員が出した意見に対してフィードバックがないのも失礼である。事業内容は予算内容にリンクするので、予算の数字が示されていない中で事業内容を検討することはできない。やったことの報告だけではなく、議論するために必要な資料を提示していただきたい。
委員	各委員の意見もよくわかるが、各委員は専門分野からの意見を求められていると思う。実施した展覧会に、アジア美術の観点、子どもの観点、学校教育の観点で、それぞれ意見を出す会だと思う。 確かに購入予算については、以前と比べると非常に少ない。私も購入予算を確保して欲しいと発言したことがあるが、寄付で努力しているということだと思う。非常に金額が少ないから足りないということだが。 アジア美術館は、アジアの人が多数来館しているが、常設展示を見ずに帰ってしまう。その理由は、アジア美術館の常設展示に日本人作家のものがいないからではないか。アジア美術館は日本人作家のものは購入しないことになっているのか。

事務局	福岡市美術館とのすみ分けを行っており、アジア美術館主催の特別企画展で展示したものについては日本の作家の作品でも収集を行っているが、常時展示しているわけではない。また、古美術は当館にはない。
委員	アジア美術館が観光の拠点となるにあたっては、日本のものを展示する必要があると感じる。市美術館と一緒にしても困るが、ひとつの提案として、じっくり考えてもらいたい。
委員	先程委員が言われたことも同じ文脈の中で戦略的であり、私が言っていることも戦略的に考えたことである。福岡市美術館もアジア美術館も学芸員の質がすごく高いと思っている。学芸員が力を最大限に発揮するためには、美術館の力を上げることが必要になると思うが、ある程度活かせるようなお金と購入が市民のための資産として文化観光を考えるためにも、継続されていない。継続されていれば今どんなに福岡市が素晴らしいものを持っていたかということは今振り返って思うので、今から30年後、50年後、100年後を考えていくなら、そういう学芸員の力を後押しするのも委員の責務だと思っている。
会長	いろいろな議論があるが、一番肝心なことは、質問に対して、次回、何らかのデータの提出や回答がいただきたい。 この協議会は予算の大枠を諮るような力は持ちえないと思うので、多様な意見を出し合い、出された意見を活かしていただければよいのではないかなと思う。
委員	少人数で議論をする分科会を設け、議論の内容を次の協議会に活かすよう、提案する。希望者による勉強会でもよい。
事務局	この場で回答することはできないが、意見として承る。
委員	アジア美術館の企画の中で、(「博多ライトアップウォーク」の一環として) 承天寺の境内を使ったインスタレーションは、若者や海外からの観光客からも注目を集めるなど、新しい方向性を示したように感じる。この取組みでの集客の変化などがあれば教えてほしい。2点目は、今年度の博多旧市街ライトアップウォーク 千年煌夜との連携はどのようなものを予定しているか伺いたい。最後に、今後の、「福岡城まるごとミュージアム」のような館外の取組みについての考え方を問う。
事務局	ライトアップウォークには地元福岡の方のほか、観光客も多数みられた。アジア美術館の外国人来館者は、一昨年度5,000人で、昨年度は7,000人に増加している。とりわけ韓国、中国、台湾が多い。年齢層は展覧会によって異なるが、『サンシャワー展』などは若い人が多かったように思う。 旧市街地との連携については、3月に実施した「福岡城まるごとミュージアム」のような展開を、今年度も検討している。また、アジアの美術館のレジデンス事業として来日する作家に、「博多灯明ウォッチング」などでの作品制作をしていただけるよう検討している。
委員	市美術館は、20年来、小学校の図工研究委員会の指導をさせていただいており、美術館が子どもにとってハードルの低いものになるよう、工夫しながら授業を展開してきた。子どもたちが大人になって自分たちの美術館に戻ってくる、そういうサイクルができたらいいなと思っている。 アジア美術館については、何回かトライしているが、「大人の美術館」という

委員 (続き)	<p>印象がある。小学生の子どもたちが自由に発想を広げられるような規制の緩和などをもう少し考えていただきたい。</p> <p>また、現在、九州で『日展』を見る機会がないのがさびしい。経営的にはうまくかみ合わないかもしれないが、地元の作家を育てるためにも、そのような機会があればと思う。</p>
事務局	<p>昨年度、常設展示における小中学生の入場者は4,707人である。そのうち福岡市内の小学校21校が当館の「スクールプログラム」に参加、学校単位での作品鑑賞を行っている。リピート校が多くなっているため、昨年からは小中学校向けに「スクールプログラム」の説明会を開催している。</p>
委員	<p>県の美術館からはバスも出すという企画もあった。そこまでは不要だと思うが、21校というのは福岡市の小中学校の未だ10分の1であるため、図工関係の教員に広げていきたいと考えている。</p>
会長	<p>アジア美術館には、市美術館のような教育普及担当の学芸員は配置されているのか。</p>
事務局	<p>教育普及専任の職員はいないが、2005年のキッズコーナーの整備や、展示室内に塗り絵を置く取組みなど、全国的にも早い時期から、親子で来館しやすいような環境の工夫を行ってきた。</p>
委員	<p>先ほど見学したアートカフェについて確認したい。</p> <p>子どもの本のコーナーは（他の書籍の選書、ディスプレイを行った）ブックスキューブリックの大井さんの監修が入っていないのではないかと感じたが、どうか。</p>
事務局	<p>委員指摘のとおり、キッズコーナーの本は2005年の設置当初のままであり、大井さんの選書の対象外としている。</p>
委員	<p>「アンパンマンこどもミュージアム」と同じ建物内にあるという立地からしても、キッズコーナーにも力を入れるべきと感じた。</p> <p>体験型教育プログラムについては、「作られ過ぎている」という印象を受ける。教材も触れないんじゃないかと感じる。もう少し柔軟に、子どもが見るだけでなく参加できるようにしてもらいたい。</p> <p>また、外国作家の招聘時に、市民との交流が深まるように工夫してもらいたい。</p>
会長	<p>キッズコーナーにキューブリックさんの目が届いていないのは残念。キューブリックさんは、学芸員が展示に気を遣うのと同じような密度で選書、ディスプレイをしている。アートカフェは今後、どのように運営されていくのか。</p>
事務局	<p>今年度から司書を配置しており、アートカフェ全体の構成・企画と併せて、キッズコーナーの部分も司書とともに検討していきたい。</p>
会長	<p>アートカフェについて、図書持出に対するセキュリティと、地震時の落下防止について確認したい。</p>
事務局	<p>基本的に司書が常駐しており、ボランティアスタッフとともに書籍の整理をしている。また、高いところは、チラシ類や「あじびニュース」等、落ちてきても特段の問題のないものを置いている。</p>
会長	<p>手の届くところに透明の台があり、揺らしてみたら揺れていた。小さな子どもが遊んでいた時に落ちる可能性があるのではないかと思うので、耐震対策はぜひやっていただきたい。</p>

事務局	<p>セキュリティについて補足すると、監視カメラを設置しており、有事には警備員が駆けつけるようにしている。</p> <p>耐震については、重たいもの、容量があるものは上に置かないようにし、今後もしっかり対策していく。</p>
会長	<p>セキュリティについて、監視カメラで警備するというよりは、基本的には盗られてもいいというくらいの感覚でやればよいと思う。</p>
委員	<p>市美術館の制作した「どこでも美術館」の教材ボックスについて、子どもたちの反応をお尋ねしたい。</p> <p>『サンシャワー展』を東京でも見たが、アジア美術館で開催する際には、かなり小規模になっているように感じた。展覧会が小規模になっていくというのは、先ほどから話題に上っている予算上の制約によるものではないか。そうであれば、私たち協議会委員として何かできることはないかと考えながら参加している。</p>
事務局	<p>『サンシャワー展』について、新国立美術館と森美術館は、会場の大きさがアジア美術館の3倍あった。そのため、アジア美術館では、会場に合わせた作品を選び、アジア美術館独自のものを加えるなど、構成を変えている。予算の問題ではなく、会場の広さという物理的な問題が大きい。</p>
事務局	<p>「どこでも美術館」については、子どもたちの反応も良く、アンケートでも「時間が短く残念」「非常に満足した」が9割以上になっている。</p> <p>先ほど「教材は触れないんじゃないか」というご質問もあったが、平面のもの以外はすべて子どもたちに触ってもらっている。いずれはこの教材キットを貸し出すことも検討しており、今年は中学校美術教育研究会にて、これらの教材キットを活用した授業を考えるワークショップをする予定である。</p>
委員	<p>少し議論を戻すが、美術館協議会は、博物館法に定められた機関であり、多様な立場の人から多様な意見を聞く会ということで理解している。より専門的な分野について議論するときは、専門家を招いた会議が以前は別にあった。事務局はこのような協議会の位置付けを説明するべきと思う。</p> <p>以前の美術館協議会では、委員からの意見に対してフィードバックがあった。対応できないのであれば、できない理由を説明すればよいと思う。</p>
会長	<p>美術館協議会は博物館法に規定されているため設置せざるをえないものであるが、議論内容まで定められているわけではないため、様々な議論ができる。協議会で意見を共有しながら、専門的な分科会が必要になれば、しかるべきところに投げかければよいと思う。</p> <p>まだ発言されていない委員にも意見を伺いたい。</p>
委員	<p>協議会は、多様な意見を述べることができるということに、ひとつの大きな意義がある。</p> <p>先日台湾大学のアーティストインレジデンスに招かれたが、台湾政府は国策として、アートを主要な公共事業と位置づけている。台北の古い村落をアーティストインレジデンスの拠点として、あるいはギャラリーとして開発し、政策的に観光とアートを結びつけている。福岡におけるアートの拠点を考えるとき、非常に参考になると思う。</p> <p>アジア美術館は、このようにきれいなファッションビルの上にあってはいけないと思う。もっと現実の中に拠点を多様化するようなものがアジア美術本来のパ</p>

委員 (続き)	ワーではないか。プログラムの内容が、ビジョンを描かれておらず、ダイナミックさに欠け、おもしろくない。
委員	各委員の意見は難しすぎる。私自身は知識がないので、自分の勉強のためと思い、この協議会に参加している。
委員	老人クラブでは、300～400人で大濠公園のウォーキングと併せて福岡市美術館に行くことがある。高齢者作品展が開催される際には、6日で600～700人が観覧に来られる。今後も一人でも多くの方々に美術館に来ていただけるよう努力していく。
委員	私も博物館を運営する立場にいるが、どこの美術館・博物館も同じ問題を抱えている。美術館・博物館が先細りにならないよう、財政的なものを得ることが、子どもたちや高齢の方々へのフィードバックに繋がると思う。そのためには、観光と結びつかざるを得ないだろうと感じている。 一方で、学芸員がそのようなことに振り回されずに力を発揮できるようなマネジメントが必要だと思う。
会長	本日は、冒頭から予算や文化戦略についてのご意見、足元の小さな企画そのものの話題から、より大きな今後の美術館・博物館のあり方を問うような話題まで、非常に幅広い議論ができたと思う。また、複数の委員がご指摘されたように、この場が自己学習、自己啓発の場になっており、重要な意義がある。それぞれの委員が地域に戻って影響力を与えてくれれば、どんどん広がっていくのではないかなと思う。

4. 挨拶 (錦織福岡市美術館館長)

5. 閉会